

日本一の交通の要衝 企業立地が進む埼玉

東日本の大動脈「東北」・「関越」・
「常磐」 自動車道が南北に縦断

既存の高速道路と連結する「外環道」・
「圏央道」が東西に横断

過去10年間の企業転入超過数
全国1位 1324社 (H14～H23の10年間)

物流・保管施設候補地
全国1位 (H26)

工場候補地
1位海外 2位愛知県 **3位埼玉県**



出展 (株)帝国データバンク資料

国際海上コンテナ物流の現状

コンテナラウンドユースとは

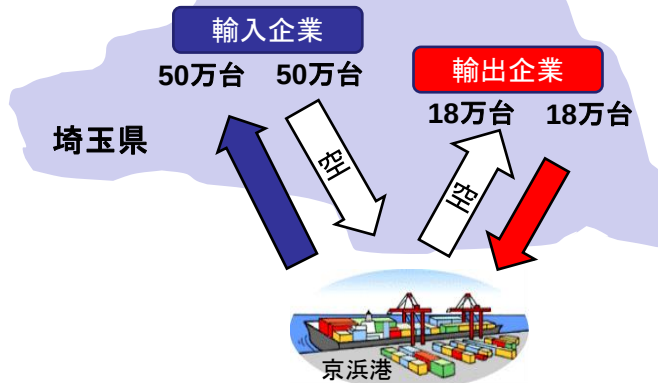
「輸入で使用したコンテナから貨物を降ろした後、空^{カラ}になったコンテナを港に返却することなく輸出で使用する効率的な物流手法」・・・情報共有など企業間の連携が進んでいない

県が旗振り役となりコンテナラウンドユースを推進

現 状

①非効率な物流

トラック輸送68万台の往復どちらかは空^{カラ}の状態



②物流量は年々増加

京浜港のコンテナ物流量
埼玉県分は5年で7割増
40万台(2008年)→68万台(2013年)

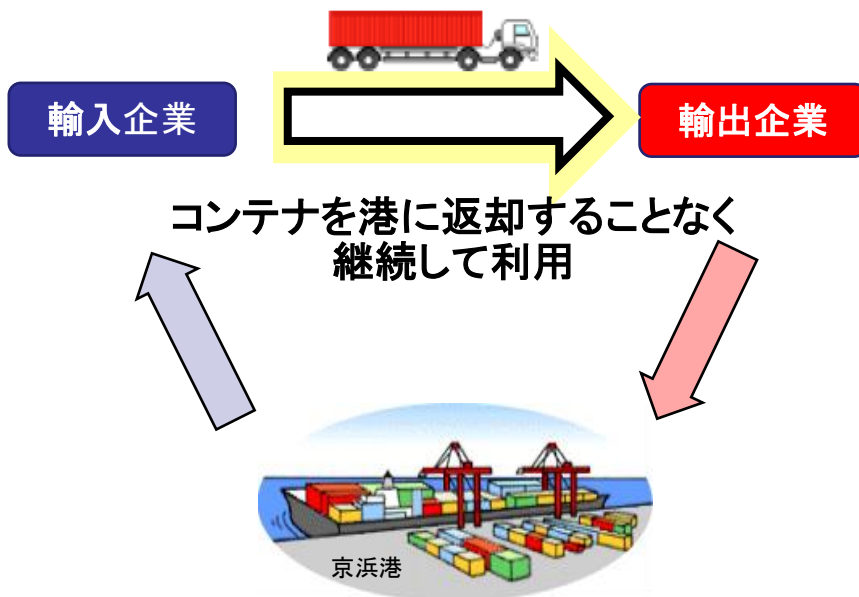
伸び率
関東第1位

港のコンテナの受渡しは慢性的な大渋滞
【東京港 平均2.5時間】

埼玉コンテナラウンドユースの期待される効果

コンテナラウンドユースで効率的な物流

カラ
コンテナの継続利用で空の輸送を減らす



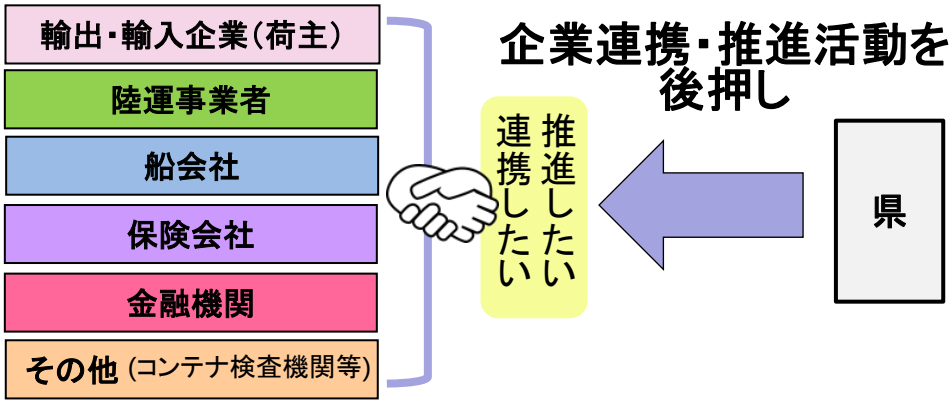
期待される効果

- ①物流効率向上による
企業の生産性向上・
県内経済の活性化
- ②トラック輸送距離減による
渋滞緩和、環境の改善

埼玉コンテナラウンドユース推進の仕組

埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会 H26.10.21設立

多社異業種による構成



構成員33社(平成26年12月31日現在)
県、物流関係事業者(荷主、陸運事業者、船会社)
のみならず保険会社、地元金融機関等が参加

取組
(1) 企業間の情報交流の場を提供 H26.10~
(2) コンテナラウンドユース社会実験 H26.11~H27.1
(3) コンテナラウンドユースに係る保険制度 H26.10~
(4) コンテナマッチング支援システム H27.1.20~運用開始

埼玉コンテナラウンドユース社会実験 中間結果



期 間 H26.11.1 ~ H27.1.31

報告件数 123件 (12/31現在)

効果

■総走行距離 **25%減**

7,544km減 (平均60km減/ラウンドユース1回)

コンテナラウンドユース実施前 30,650km → 実施後 23,106km

■輸送時間 **40%減**

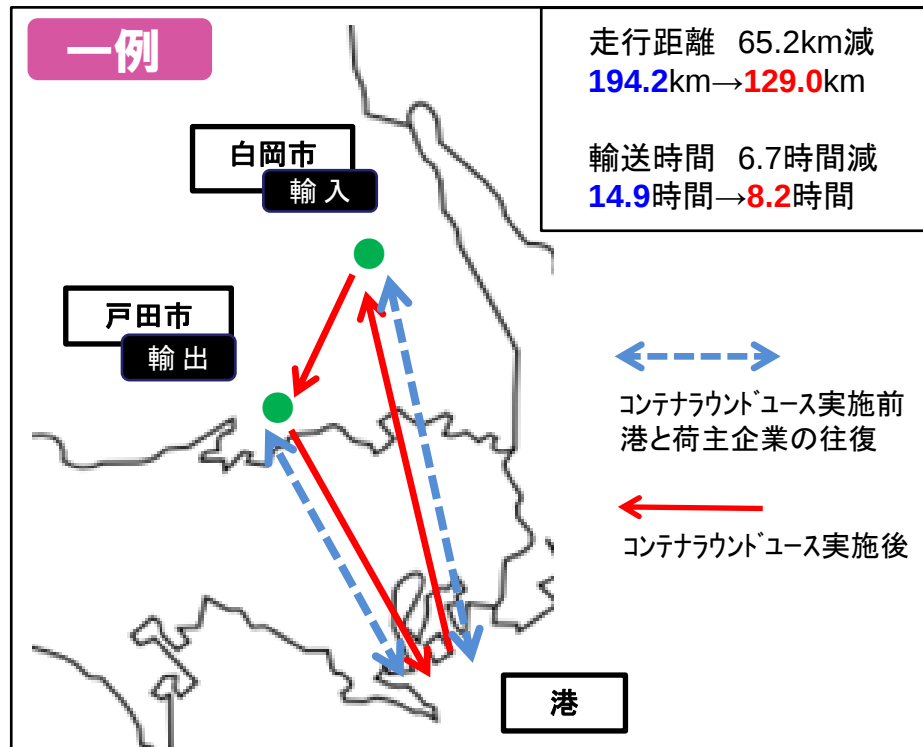
804時間減 (平均6.5時間減/ラウンドユース1回)

コンテナラウンドユース実施前 1,996 時間 → 実施後 1,192 時間

■CO2 **8.35 トン削減(総計)**

↑ ヒノキ980本/年 CO2吸収相当

一例



事業者の皆様、「埼玉県コンテナラウンドユース推進協議会」に是非ご参加ください
ご相談は都市計画課へ